

## 特集 桜花賞

今週はいよいよ桜花賞。牡馬、牝馬ともに主役が現れず、大混戦のクラシックとなりそう。異常事態・・・とも言えるが、考えてみればサンデーサイレンス産駒がクラシックを独占していた時代が異常なのであって、現在の状況が普通なのかもしれない。

バブル時の日本経済を懐かしむ業種や人種もいるが、あれが異常事態なのであって、不景気と言われる現在が普通。“サンデーバブル”が去った後の今が、本来あるべき姿と考えれば、異常事態ではない。但し、成功している企業や人には、いつの時代にも共通する事がある。競馬の世界も同様で、どんなに混沌とした時代であっても、クラシックを狙うには、避けては通れない道がある。

### クラシックへの道

2戦目までに初勝利。 500万下は一発通過。 初重賞でも3着以内。

本命にする馬ならこの3条件を備えた馬。 以下桜花賞では通用しないパターン。

### その(1) 準備

クラシックを狙う上で大切なのは「準備」。その準備をする上で重要な事は「予定通り勝つ」事。デビューから最初の一冠まで最長で9ヶ月、平均的には、4～5ヶ月間。

この間に賞金を加算、馬の成長を促しながら目標に向けローテーションを組んで行く。

日本の競馬の場合、「一勝を挙げて初めて次のステップ」と言うシステムが組まれている。

デビュー後2戦目以内に初勝利、そして次のステップへ、がクラシックへの大前提。

1990年以降、桜花賞連対馬36頭中32頭がデビュー2戦目までに初勝利を挙げている。

又残る4頭のうち2頭は連対率100%のまま桜花賞に挑戦、あとの2頭も3着以下1回の馬。

人間社会同様、牝馬の方が早熟。早熟度競う桜花賞。モタモタしている馬に出番なし。

**× 3着以下が2度あり、初勝利が3戦目以降の馬**

### その(2) 完成度

但し、単に早熟だけで桜花賞を勝てる程甘くない。安定した力を発揮できる完成度が問われる。

同じく連対馬36頭中32頭が桜花賞前までの連対率が66%以上。

つまりキャリア3戦の馬なら許される凡走は1度、それ以上のキャリアでも2度。

凡走を何度もしている馬が完成度を競うレースで好走は出来ない。

× オープンの連対もなく、連対率66%以下の馬。

### その(3) コース適性

牡馬が朝日杯1600m 皐月賞2000mと距離が伸びるのに対し、

牝馬は阪神JF1600m 桜花賞1600mと距離、コースともに同じである。

桜花賞が行われる阪神芝1600m、トライアルのチューリップ賞はもちろんの事、2、3歳戦に

数多く組まれている。桜花賞を目指すなら一度は経験しておきたいところだが、2度以上経験しても結果を残せなかった馬に、同コースで上位を望むのは酷。

又本番と同一コースで行われる阪神JF、チューリップ賞の両レースに出走、どちらも掲示板に乗れなかった馬が本番で巻き返すというのは、格差社会の牝馬重賞では有り得ない。

× 阪神芝1600mに2度以上の出走歴がありながら馬券対象になった事のない馬および

阪神JF、チューリップ賞両レースで6着以下の馬。

### その(4) 評価

桜花賞を迎える頃には同じ馬が対戦している事が多く、大体の力関係が出来上がっている。

今年のような混戦になった年でも、とんでもない「隠し玉」が飛び出す事はない。

連対馬は、素質を期待されたり、一度は強いレースをして高評価を受けた馬ばかり。

× 前走3番人気以内、又は過去に1番人気の経験のある馬。この2つの条件を持たない馬に

G1連対の資格なし。

## 1990～連対馬の項目別戦績

年度	馬名(人気)	初勝利	連対率	前走(人気)	年内	勝利数 ( )OP 数字は 2着	阪神芝 実績	阪JF チュリ賞
2007	ダイワスカーレット(2)	1戦目	100%	G 2着(2)	3戦目	2勝(1)	0-1-0-0	不
	ウオッカ(1)	1戦目	100%	G 1着(1)	3戦目	4勝(3)	2-0-0-0	
2006	キストゥヘヴン(6)	4戦目	100%	G 1着(6)	5戦目	2勝(1)	未経験	不 不
	アドマイヤキス(1)	3戦目	100%	G 2着(2)	2戦目	2勝(1)	1-1-0-0	不
2005	ラインクラフト(2)	2戦目	75%	G 1着(1)	2戦目	3勝(2)	1-0-3-0	不
	シーザリオ(1)	1戦目	100%	G 1着(1)	3戦目	3勝(1)	1-0-0-0	不 不
2004	ダンスインザムード(1)	1戦目	100%	G 1着(1)	3戦目	3勝(1)	未経験	不 不
	アズマサンダース(7)	1戦目	75%	G 2着(3)	2戦目	1勝( )	0-1-0-1	
2003	スティルインラブ(2)	1戦目	100%	G 2着(1)	3戦目	2勝(1)	1-1-0-0	不
	シーイズトウショウ(13)	2戦目	50%	G 4着(5)	3戦目	1勝( )	0-0-1-2	
2002	アローキャリー(13)	1戦目	50%	OP 8着(1)	4戦目	1勝(2)	0-1-0-0	不
	ブルーリッジリバー(7)	1戦目	50%	G 4着(3)	3戦目	2勝( )	0-0-0-1	不 不
2001	テイエムオーシャン(1)	1戦目	80%	G 1着(1)	2戦目	4勝(2)	2-0-0-0	
	ムーンライトタンゴ(4)	3戦目	75%	500万下1着	5戦目	2勝(0)	1-0-0-0	不 不
2000	チアズグレイス(6)	1戦目	57%	G 10着(1)	4戦目	2勝( )	0-0-0-2	
	マヤノメイビー(7)	1戦目	66%	G 3着(2)	1戦目	2勝(0)	1-0-1-0	不
1999	プリモディーネ(4)	1戦目	66%	G 4着(3)	2戦目	2勝(1)	0-0-0-1	不
	フサイチエアデール(2)	4戦目	71%	G 1着(1)	3戦目	3勝(2)	2-1-0-1	不 不
1998	ファレノプシス(3)	1戦目	75%	G 4着(1)	2戦目	3勝(1)	2-0-0-1	不
	ロンドンブリッジ82)	1戦目	75%	G 4着(1)	2戦目	3勝(1)	0-0-0-1	不 不
1997	キョウエイマーチ(1)	1戦目	80%	G 1着(1)	4戦目	4勝(2)	2-0-1-0	不 不
	メジロドーベル(2)	1戦目	66%	G 3着(1)	2戦目	4勝(2)	1-0-1-0	
1996	ファイトガリバー(10)	1戦目	75%	OP 3着(1)	4戦目	2勝(0)	0-0-1-0	不 不
	イブキパーシヴ(4)	1戦目	75%	G 1着(1)	2戦目	3勝(1)	0-0-1-0	不
1995	ワンダーパヒューム(7)	1戦目	66%	OP 2着(4)	4戦目	1勝( )	1-1-1-0	不 不
	ダンスパートナー(3)	1戦目	100%	G 2着(2)	4戦目	1勝( )	0-2-0-0	不 不
1994	オグリローマン(3)	3戦目	75%	G 2着(2)	3戦目	4勝( )	0-1-0-0	不 不
	ツインクルブライド(12)	2戦目	28%	G 4着(1)	5戦目	2勝(0)	1-0-1-2	不 不
1993	ベガ(1)	2戦目	100%	G 1着(1)	4戦目	2勝(1)	1-0-0-0	不
	ユキノビジン(5)	1戦目	75%	OP 1着(9)	2戦目	2勝(1)	未経験	不 不
1992	ニシノフラワー(1)	1戦目	100%	G 2着(1)	2戦目	4勝(2)	1-1-0-0	
	アドラーブル(6)	1戦目	50%	G 1着(3)	4戦目	2勝(1)	1-0-1-0	不
1991	シスタートウショウ(4)	1戦目	100%	G 1着(1)	4戦目	3勝(1)	1-0-0-0	不
	ヤマノカサブランカ(13)	1戦目	43%	G 4着(2)	5戦目	2勝(1)	2-1-1-0	不 不
1990	アグネスフローラ(1)	1戦目	100%	G 1着(1)	4戦目	4勝(2)	3-0-0-0	不
	ケリーバッグ(3)	1戦目	100%	G 1着(2)	3戦目	1勝( )	0-1-0-0	不

阪神芝実績の項目：京都競馬場で行われた91,95年は京都芝実績。

2002年優勝馬 アローキャリーは中央成績のみ対象

戦績だけでは理解不能なのが1994年12番人気2着馬のツインキウルブライド一頭。  
しかしこの年は、主要ステップレースのチュールリップ賞、4歳牝馬Sが中京で行われた年。  
例外中の例外だろう。

そして波乱の年、平穏な年、その結果に大きく影響するのが阪神JFとチュールリップ賞。  
この両レースを見ていくと桜花賞の波乱度が見えてくる。

当社最終見解でお伝えします。